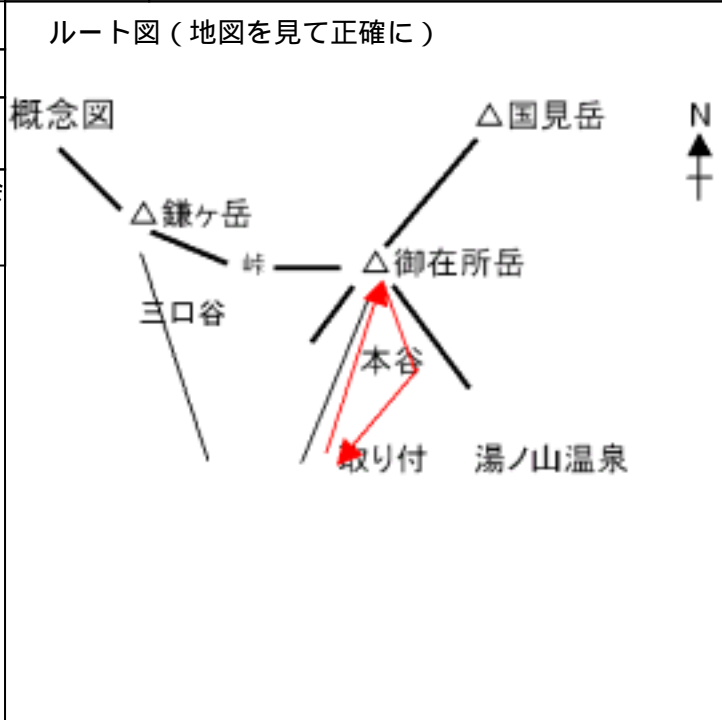


1 月度個人 山 行 報 告 書			報告者	長島博美	参 加 メンバ－	CL：藤田 健治 SL：長島 博美 亀山、竹内、山田、江頭、 松永、塚本、渡辺（勝）
			報告日	' 06 2/8		
山 域	鈴鹿山系	山行日	2006 年 1 月 21 日			
山 名	御在所岳(1,212M)					
山行目的	冬山登山	コースタイム（天候：天気図記号）				

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙:集会
担当者



土曜日(天候)
7:40 刈谷発
9:20 ゲート前駐車場発
9:55 中登山口
10:00 ヤッケ、服脱ぐ
10:50-11:05 アイゼンを装着
12:12-12:52 ザイル練習
13:10 登頂（スキー場）
1:50 ロプウェイ乗り場にて休憩
14:25 ロプウェイ乗り場発
15:30 中登山口戻り
15:45 ゲート戻り
17:30 希望荘（温泉）発
18:40 刈谷着

7 時 40 分刈谷正門前出発。菰野エリアで雪がチラつき始めた。すれ違う車は 3 cm 程雪を乗せていた。ゲートは閉じられ、既に 20 台ほどの車が駐車していた。準備を急ぎ、出発。中登山口までの道でも 20 cm 程の積雪。中登山口から気分を一新して登り始める。私（長島）がトップ。この日は 5 分ほど進んだだけで汗ばむ程暖かかった。スタートが遅かったせいか、踏み跡がついていた為、藤田部長が「これでは楽勝過ぎてお稽古にならんあ」と一言。沢を左手に巻くトレースがあったが途中切れ切れになり、塚本さんが雪道に慣れない私の指導を兼ねてトップを代わった。途中から「人の行った道を行かずに自分で道を作れ」と塚本さんが言うので、ふみ跡の無い真っ白の雪の中をトップで進む事になった。真っ白のパウダーを進むのは気持ち良かった。渡辺さんと塚本さんがアイゼンを付けるタイミングで議論をしていた。アイゼンのタイミングにも考え方が色々ある事を知る。滝を高巻中に青白い氷が見え始める。ツララや氷の柱の見事さに感動する。やはり人工とは色も透明度も違うようだ。渡辺さんが滝に登り始めるが、途中ザイルにて援助。その後、新人 3 人は滝を練習も兼ねてザイルを使って登った。ザイルがあると落ちない安心感があった。プルージックの結び目を自分で作れなかったので、結び方の勉強不足を実感。その後頂上までの急登をラッセルで目指した。去年は全くラッセルができなかった

私だが、今年は少し上達したようで前に進めた。また自分がラッセルした後が進んできてくれたので、ラッセルのしがいがあり、うれしかった。ラッセルでほぼ垂直に登ったので、気がつくとすぐ頂上（スキー場側）側に出ていた。頂上は打って変わって風が強く、数分で体が冷えてしまった。ロープウェイ乗り場へ移動し、甘酒を頂き、体を暖めた。計画書では鎌ヶ岳へも行く予定であったが、時間が足りず中道を下山。1 時間強で中登山口に降りつく。アイゼンを外し、駐車場へ向かった。帰りに希望荘で温泉に入り、リラックスして帰途に着いた。

リーダー所見 西尾寿一氏の解説では本谷を一の谷と言うのが正式名のようなのである、湯ノ山からも望見できる顕著な谷筋をトレースでき又メンバーにも恵まれ皆が手ごたえを感じてくれたようだ。



確認
(リーダー)
藤田
06/2/1
作成
報告者)
長島博美
06/01/31